

少子高齢化、人口減少を考える



教育長 岩原 勝行

弟子屈町の課題は何ととっても少子高齢化、人口減少だと思っています。

この課題は全国どこでも一部の都市部を除いて共通しているのではないかと思います。弟子屈の状況とこれまでの対策などについて紹介したいと思います。

少子化とは出生率が低下し、子どもの数が減少することですが、未婚化や晩婚化の進行、価値観の変化による独身時代を楽しみたい、女性の社会進出も影響していると言われます。また、子育て支援体制の遅れ、仕事と育児を両立できる環境整備の遅れも指摘されており、少子化の影響は、労働力供給の減少、年金などの社会保障への現役世代の負担増、社会的扶養の必要性増加、地域の過疎化に繋がると言われています。

弟子屈町の人口のピークは1960年の国勢調査で13,262人、その後減少してきており現在は7,000人を切っています。2040年の推計では4,600人に減少するとされています。一方、高齢者といわれる65歳以上の人口は年々増加し、現在は2,800人、人口の40%を超える状況で、2040年には人口の約50%が65歳以上の人々が占めるとされています。児童生徒数（小・中・高校生）は30年前の1990年には1,728人いましたが、少子化の影響で現在は490人に減少しています。

少子高齢化、人口減少がもたらす問題は、労働力不足・学校の統廃合や高校の間口減少・魅力ある商店街の減少・空家、廃屋の増加・高齢化による介護施設の不足・町民サービスの低下・町の活力低下などが挙げられます。

少子高齢化、人口減少に対する町のこれまでの対策としては、赤ちゃんすくすく応援券交付・高校生までの医療費支援・保育料の無償化・学校給食費の無償化・公設民営塾の開設・新規就農、新規起業助成金の支給・移住促進・地域おこし協力隊の受け入れ・空家改修、家賃補助・川湯温泉街の整備・老人福祉施設等の整備・中心市街地再構築構想・第6次総合計画、人口ビジョン、創生戦略（2022年～2029年）の策定等々です。

しかしながら、人口減少に歯止めをかけるには至っていないのが現状です。年間30人前後となってしまった出生数をいかに増やすか、転入転出の社会増減のマイナス値をいかに小さくするか、高校卒業後の就職希望者の町外流失をいかに最小限にするか、大学や専門学校卒業生をいかに町内へUターンしてもらうか等々、多くの課題があります。

弟子屈町教育のめざす姿「学校、家庭、地域社会が連携し、ふるさとを創る人を育む」に基づき実施している、小中学校における総合的な学習や弟子屈高校での探究学習で、町の良さを知る学習を継続強化することにより、一度町を離れても、将来町に戻って、弟子屈町の未来を背負う子どもたちの育成が、人口減少対策には必要不可欠ではないでしょうか。

特支教育関係書籍の寄贈を受けました

教育長 岩原 勝行

弟子屈小学校や和琴小学校で教鞭をとり、その後、道内各地の特別支援学校で特別支援教育に携わり、5年前に白糠養護学校長で退職された、町内在住の越前敏博さんから、10月末に特別支援教育関係書の寄贈を受けました。

いろいろな障がい種の支援学校に勤務されていたことから、種類も多種多彩でその数約400冊、全て自費購入とのこと。町内の学校でも支援を要する児童生徒が増加傾向であることから、担当する先生方の参考となる書籍ばかりです。

さっそく町内の教職員に希望する書籍を配布させていただきました。貴重な書籍、有効に活用されることと思います。

大変ありがとうございました。



美留和小学校学芸会

教育長職務代理者 金井 秀明

感染対策を十分にとって、美留和小学校学芸会が10月16日に開催されました。今では基本動作となった入



場前の体温測定、手指消毒。全校生と教職員の方に出迎えられ、プログラムをいただき体育館に入りました。感染対策のため体育館の扉が開放されているので、少し涼しいのですが、それを忘れさせる熱い演技の数々でした。器楽合奏や歌が披露され、恒例となったステージ上での一輪車。始めたばかりの児童も何とか乗りこなし、ベテラン勢は8の字、アイドリング、逆走とステージを目一杯使った演技を披露。全教職員と教育実習生参加の劇は、笑いの中にも感心ありと楽しく観賞しました。保護者、地域の方々、教育関係者が入った会場は最後まで感動と笑いに包まれていました。

釧路義務教育学校との座談会

教育委員 菅原 誓之



去る10月25日「北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程」の生徒と座談会をしました。今年4月より教育大学附属釧路小学校と同中学校が義務教育学校となり、後期課程9年生

(中学校3年生)の生徒が来町しました。経緯としては、コロナ禍により修学旅行先が変更となり、屈斜路プリンスホテルに2泊すること。その際「総合的な学習の時間」という内容で、地元で仕事をしている人や地域おこし協力隊の方々との座談会をする、という依頼でした。

当日は、本照寺住職として寺子屋開催の内容、被災地へのボランティア活動経験などをグループ内5名に説明。その後、各生徒よりタブレット端末にまとめたプレゼンテーションを聞かせて頂きました。みんなSDGsを中心に釧路市をどのように活性化するのかという内容でとても勉強になりました。

吹奏楽演奏会

教育委員 吉田 一徳

11月3日に釧路で演奏会があり、小・中・高の吹奏楽メンバーと川上シンフォニアの合同バンドが出演しました。

緊急事態宣言でしばらく各々の練習が出来ず、ギリギリまで全体の調整がつかいましたが、いざ本番では持ち前の根性を発揮させて見事な演奏でした。



コロナ禍ではありますが、今後も素晴らしい演奏を披露して頂きたいと思います。

リモートの可能性

教育委員 宮田 昇子

日本で3人目のプロソフトテニスプレイヤーの「よしれい」こと芳村玲さんの講習会が11月27日、摩周観光文化センターで行われ、弟子屈中学校ソフトテニス部員とソフトテニス少年団員が参加しました。

芳村さんは個々の課題を確認しながら熱く技術指導を行い、子どもたちも楽しそうに汗を流していました。ソフトテニスの競技人口は中学生が一番多く、その後高校、大学とどんどん減っていくそう。芳村さんは「夢を持って長く競技を続けてほしい」と話していました。

現在プロは8人とのことですが、今後もっと盛り上がっていくといいなと思います。



長く教育委員コラムの編集を行ってきた菅原委員からバトンを受け、今号から担当させていただきます。

先日、市町村教育委員会新任委員研修会を受講しました。就任後2年以内の委員を対象とした研修で、昨年に引き続き二度目の受講。昨年同様リモートでの研修でしたが、スムーズにストレスなく受講できました。Zoom(ズーム)に加えてComment Screen(コメントスクリーン)というアプリを併用することで受講者が匿名で発言できるなど、研修の内容は勿論、その方法や運営に工夫が感じられました。リモートの学びは、今後ますます多様化していきそうです。対面の良さは言うまでもありませんが、両方の利点をうまく取り入れていきたいと改めて感じました。

(宮田)

編集後記